



# 碧南ロータリークラブ週報

第2539回例会 平成23年3月16日(水)

● 会長 奥田 雪雄 ● 幹事 新美 宗和 ● 会場監督 (SAA) 伊藤 正幸

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール  
 ■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90  
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100  
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>  
 E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)



■ 会報委員 新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原 優

## ● 齊 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

## ● 本日のお客様

プロ野球評論家 木俣達彦氏



木俣達彦氏

## 会 長 挨拶

こんにちは。東北関東大震災、巨大地震に続く津波、そして原子力発電の危機。我々が今まで経験したことの無い自然災害に加えるに、人類の発明した原子力が今、自然の力を介して襲いかかろうとしています。フランスの原子力安全局は、国際原子力事象評価尺度で上から2番目の「レベル6」に相当すると言っております。旧ソ連のチェルノブイリ事故は「レベル7」でありますので、上から2番目の重大事故となります。アメリカのスリーマイルの事故は「レベル5」です。



奥田雪雄会長

しかしながら、震災にあわれておられる方々には言葉のかけようもございません。テレビを見、新聞を見、涙がただ、ただ溢れ出るばかりです。被災された方々は恐らく、今までがどれほど幸福であったか実感されておられることと思います。

災害を受けていない私共が、被害を被られ、絶望の中におられる皆様方に言えるようなことはありません。しかし、オグ・マンディーノが言っております。どんな時にも福の種はあるものだ。それを見つけて事態を好転させてもらいたい。現在の挫折感を克服することが如何に難しくとも忘れ去り、明日の問題は無視し、今日こそ、この日、この時を大事にし、生きていくことだとしか言いようがありません。再び幸せな日々が舞い戻ってまいりますことを心より願っております。そして、その日とその時が必ずやってくることを。昨日は静岡県富士宮市で震度6強。明日は我が身です。

幸福は物を所有したり、獲得したりすることではなく、与えることで得られると思います。人に手を差しのべ、分かち合い、ほほえみかけることによって。

幸福は香水と同じです。他の人に振りかけると必ず、自分にも2~3滴はふりかかってまいります。真の幸福は自分の内にあると肝に命じ、我々ができることは、直接できることは非常に少ないと思います。が、同じ国民として、友人として、少しでも友のお役に立てるよう、沢山の大変、

沢山のご寄付を頂ければ幸いです。復興への第一歩が踏み出せるように、そして踏み出した時の力になれますように、ご協力のほど、宜しく願い申し上げます。

また、本日は元中日ドラゴンズの木俣達彦氏に卓話をお願いしてございます。こんな折ですが、こんな折だからこそ、楽しいお話を聞かせて頂ければ、憂鬱な気持ちを少しでも和らげることができると思います。是非とも、我が中日ドラゴンズの連覇へ向けての明るいお話を聞かせて頂ければと思っております。

また、昨年6月に卓話をいただいた際、ロータリーからのお礼を第30回ロータリー杯争奪戦少年野球大会にご寄付を頂いておりますことをお伝えしておきます。ありがとうございました。以上で本日のお話を終わらせて頂きます。

## 幹事報告

- ・例会変更等は幹事報告書のとおりです。
- ・先ほど、会長のご挨拶にもありましたように東北関東大震災に対するたくさんのご寄付をお願いしたいと思っておりますので宜しくご協力のほど、お願い申し上げます。



新美宗和幹事

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数72名(内出席免除者16名の内出席者11名)出席者 59名

出席対象者 59/65名

出席率 90.77%

欠席者13名(病欠者2名)

前々回修正出席率 100%

### 〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

加藤丈太郎君 そと孫の一人、女の子ですが今年、名古屋市立大学医学部に運良く合格しました。親子ともに喜んでます。

木村 徳雄君 黒田昌司さんにお世話になりました。ありがとうございました。

長田 和徳君 本日、卓話の講師をご紹介させていただきます。

## 卓話

「プロ野球よもやま話」 プロ野球評論家 木俣 達彦氏  
中日スポーツの本日の記事では、東北関東大震災の影響でパ・リーグは開幕を延期して、セ・リーグはそのまま予定通り、開幕すると言った記事が書かれていましたが、この状態では野球はやってはならない、全体の試合数を削ってでも5月くらいに開幕を持っていくぐらいの決断が必要だと考えます。



ノーベル賞をとられた根岸氏が「serendipity(セレンディピティ)」ということを言われていましたが、辞書を引くと「偶然の発見」という解釈が出ていました。根岸さんはノーベル賞を取られた論文の内容を50年も前から何とかしてやろうと思って色々試行錯誤していたが、失敗に失敗を繰り返して忘れたところに偶然にも、昨年、発見に至ったと報道されていました。

私の場合は、小学校5年生の頃から、夢は甲子園、中日ドラゴンズの野球選手を夢見ていました。プロに入り、王さんの一歩足打法を何とか物にしたいと王さんを訪ねましたが、一本足で何分立てるか、(王さんは10分以上立てなければいけないと言っていました、)その次はステップの幅は常に同じところに降りなければならない、その幅は89cm(畳の幅の大きさ)だと。その二つができてから、スイングしなさいと言われました。王さんは刀でよくスイングを練習して見えま

したが、それについて質問すると、バットだけどそれを刀だと思っていると。上から返してはいけない、返すと切れないので引きなさいと。打つ時にボールを刀で切るようにイメージしなさいと言われ、当時はその意味が分かりませんでした。引くというイメージが分からなかったのですが、10年目にしてようやく引くと良いという意味が分かりました。それから3割を打てるようになりました。今までの教えや日本のプロ野球のコーチと全く違うことを王さんに言われていたのが当初、私はそれを実践していませんでした。

今の高校、大学、プロ野球でも共通して、インコースの球は前で打ちなさいと、アウトコースの変化球は引き付けて打ちなさいというのが一般的な指導者の教え方なのですが、王さんの場合、インコースは引いて打つ、ということはポイントが近い、真ん中はちょっと前で、アウトコースは一番、ポイントを前にして打ちなさいと。ポイントが今までの常識と全く逆でした。王さんの教えは10年目にしてそれがようやく分かり、スライスボールをライト前に打ち返すことができるようになり首位打者を王さんと争うまでになりました。一歩足打法でもなかなか立てなかったのが、疲れて息をはぁ〜と吐いて抜いたら安定して立てるようになりました。これにより私はいわゆる「マサカリ打法」を確立しました。ちなみに、楽天の山崎は私が教えていますのでよく打ち方が似ています。

野村監督はこれをやれとか、あれをやれとかは一切、言いません。このピッチャーはこういう場面になるとこういうことがあるよとか、そういうデータは提供するけれど、あとは自分で考えてやりなさいが基本。だからこそ、駄目だった選手も再生、復活すると思いました。今の中日の場合は全く違い、上からどんどん抑え込んで自分たちの意見は聞いてもらえないのが実情だ。練習時間は上からの作られたメニューであり、12球団で最も長く、ボールの消費量も一番。それだけ練習しても昨年の平均打率は2割5分9厘でセ・リーグ5位と低迷でした。落合監督は中日を優勝に導いた大監督だが、バッティングを教えてうまくなった選手、結果を出した選手は一人もいないと思う。教えるといことは本当に難しいこと。

この10月に中日新聞社より現役時代を想起した本を出版するので是非、お買い求めください。宜しく申し上げます。本日はありがとうございました。

**次回例会案内 平成23年 3月30日（水）**

**卓話「ホーロー看板に見る広告文化史」**

**ホーロー看板コレクター 佐溝 力氏**